令和４年８月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第696号

林業福島

No. 696

8

2022

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■シャワー

ウッド・チェンジ！
木づかいが　森をよくする　暮らしを変える

福島県木材協同組合連合会
会　長　鈴　木　裕　一

福島県木材協同組合連合会の事業運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、森林・林業・木材産業を取り巻く状況は大きく変化してきており、世界的な需給がひっ迫し木材不足を引き起こしている一方で、先人のご苦労により作られた国内の森林資源は年々充実してきており、木材利用拡大の動きを加速させることが重要となっております。

また、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を強力に推進するためにも、木材利用を拡大することが有効とされており、木材産業の果たす役割はますます大きくなってきていると感じているところです。

今年度は、民間住宅用建築材の需要が減少する中で、公共施設や非住宅分野での木造・木質化の促進に設計・建築士等と連携して取り組むほか、国の支援制度を工務店等へ普及し、更なる県産材の需要拡大に取り組んでまいります。

さらに、放射性物質対策として計画的に配備を進めてきた原木市場やチップ工場等への放射線検知装置の適正な維持運用を図るとともに、相双地域においても徐々に素材生産が増加傾向にあり、木材加工施設の整備もなされてきたことから、引き続き安全・安心な県産材の供給体制の構築に努めてまいります。

バークについては、滞留はほぼ解消されていますが、今後も滞留を生じさせないよう、バークの利活用等に引き続き取り組んでまいります。

「ウッド・チェンジ」は、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動です。県木連といたしましても、建築物のみならず様々な場面での木材利用の普及を展開するとともに、ＪＡＳ製材品をはじめとする木材・木製品の安定供給に努めてまいりますので、今後とも皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

《もくじ》

とびら
ウッド・チェンジ！
木づかいが　森をよくする　暮らしを変える
福島県木材協同組合連合会
会長　鈴　木　裕　一……1
講師に必要なスキル習得・向上のための
実践研修について……2
県政コーナー
被災した林道等施設の復旧について
……3～4
いわき市におけるスマート林業の
取り組みについて…5～6
林業アカデミーふくしま研修日誌③……7
「新たな森林づくり」③……8
公社だより……9
林研グループだより……10
木の文化を育む㊶……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

講師に必要なスキル習得・向上のための実践研修について

～特に『林業アカデミーふくしま就業前長期研修』の講師を務める方に向けて～

（公社）福島県森林・林業・緑化協会　林業労働力確保支援センター

◎はじめに

当協会においては、森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手の育成・確保を支援するとともに、次世代のリーダーとなる人材の育成を図るため、「森林・林業担い手育成セミナー」等の取組みを通じて森林・林業に関する情報を提供しているところです。

今回は、特に『林業アカデミーふくしま就業前長期研修』の森林作業技術に関する講師の方に向けて、講座を実施するうえで必要な技術（プレゼン技術や研修デザイン思考法等）や指導方法等のスキル習得・向上を目的とした演習形式中心の研修を開催しましたので、その内容をお知らせします。

なお、本研修は、就業前長期研修の開講を控えた昨年十一月二九・三〇日にも新人講師養成研修として一日半の日程で開催しており、参加した十二名の方からはとても好評でした。このため、日程を二日間とも全日に拡充して実施したものです。

◎研修の内容

令和四年六月二一日(火)・二二日(水)の二日間、郡山市の福島県林業研究センター研修本館において、福島県・福島県森林組合連合会・福島県木材協同組合連合会のご後援をいただき開催しました。

研修講師には、今回も横山繁樹氏をお迎えしました。同氏は、二〇年間の森林組合勤務を経て「森林づくりは人づくり」をコンセプトに人材育成を主としたワイフォレストリーを開業後十年間活動されており、緑の雇用研修や職長・安全教育のほか様々な業種で講演や組織・人材活性化支援等を行っておられます。また、和歌山県農林大学校では自己研鑽研修を担当されています。

受講者は、昨年十一月を大幅に上回る三〇名となりました。

横山繁樹講師

一日目の研修は、講師としての心得・考え方や、講義における到達目標と評価方法等についての内容で行われ、「研修講師とはどのような人か」「（自分が）どのような講師像を目指していくのか」「どのような目的を持って、どう研修をデザインしていくのか」といったポイントについて、意見交換等の演習を交えながら進められました。

また、十六分割ノートやマインドマップなどの思考整理法の活用、アイスブレイクや休憩の効果と活用、指導案の作成方法等についても、演習を交えた実践的な講義となりました。

指導計画作成演習

研修全景

二日目の研修では、ティーチングとコーチングの違い、ストーリー作りや感情の伝え方等についての講義、横山講師自身による講義の実演、プレゼン技術演習（紙芝居プレゼンテーション法、テーマはふるさと自慢として各自が資料を作成し発表）のグループワークを行いました。

さらに、現地実習中の安全確保のため、リスクアセスメントによる危険対策方法について、グループ演習を行いました。

横山講師自身の豊富な経験・様々な知識・情報を盛り込んだ分かりやすい講義で、受講後のアンケート回収結果でも、ほぼすべてが「大変良かった」や「参考になった」との回答でした。特に、研修の全体設計や講義の演習について参考になったとの回答が多く、「研修の組立て方を理解することができ、今後に活用できる」等の意見が寄せられました。

リスクアセスメント演習

プレゼン技術演習

◎おわりに

当協会では、林業就業者の技能向上と定着促進を目的として、林業アカデミーふくしまの就業体験（インターンシップ）受入れ事業体の班長クラスの職員を主な対象に、コミュニケーション能力・指導力向上のための実践研修も八月二十四日に開催いたします。

今後も、本セミナーの取組みに、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

県政コーナー

被災した林道等施設の復旧について

福島県森林整備課

林道等施設の災害復旧事業の概要や、今年度実施している復旧工事の進捗状況などについて紹介します。

一　災害への対応について

県内の林道は、一、七三八路線、全延長四、一〇一キロ（令和三年三月現在）あり、利用者の安全を確保するため、管理者である市町村がパトロールや維持管理を行っています。

日常的に適切な維持管理に努めていても、豪雨や地震などの異状な天然現象に対応することは困難であり、林道等施設が被災した場合、二次災害を防止するため、通行止めや応急的な措置をすみやかに講じ、その後、復旧工事を行っています。

災害は、地域的、時間的に極めて偏って発生し、復旧にあたっては、緊急かつ莫大な支出を伴うことから、国庫補助事業による財政的な支援を受けて復旧工事を実施しています。

法面の崩落（被災時）（いわき市桐ヶ岡線）

法面の崩落（竣工）

二　災害復旧事業について

㈠　林道施設災害復旧事業

林道施設災害復旧事業費は、農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法に基づく国庫補助事業で、二四時間雨量八〇ミリや震度四以上などの異状な天然現象により被災し、事業費四〇万円、路線延長五〇〇メートルなどの条件を上回る復旧工事が補助対象となります。

路線の規模により五〇パーセントまたは六五パーセントの基本補助率に加え、被害の状況により率の嵩上げがなされることから、過去五年間の補助率の平均は九二・三パーセントとなっており、復旧事業において不可欠な財政支援となっています。

工事に先立ち、財務局職員の立ち会いのもと林野庁職員による災害査定が行われ、復旧工法や設計額について確認を受けることとなります。

査定実績を基にした平成二三年以降の被災状況は、表１のとおりです。東日本大震災と福島・新潟豪雨災害のあった平成二三年、台風十九号災のあった令和元年が特に甚大な被害となっています。

通常、復旧事業の予算は、被災した年から三年間で完了するように措置されますが、当県では甚大な被害を受けた復旧にあたり、三年を超えて措置されているものがあります。また、今年三月に地震災が発生しており、今年度は複数年度にわたる災害の復旧を実施しています。

表１　林道災害復旧事業の査定実績

発生年	箇所数	査定額
平成23年災	349	2,745,011
平成24年災	16	87,833
平成25年災	59	672,003
平成26年災	37	442,389
平成27年災	67	678,931
平成28年災	6	25,577
平成29年災	39	352,569
平成30年災	0	0
令和元年災	246	2,292,395
令和２年災	3	114,316
令和３年災	0	0
令和４年災	9	158,260

※令和４年７月現在

①平成二三年東日本大震災

平成二三年三月十一日発生した地震による災害では、被害が甚大であるとともに、原子力発電所の事故も発生したことから、復旧にあたり様々な特例措置が講じられました。

特に、放射性物質の影響で立ち入りが制限された区域においては、制限が解除されてから事業に着手でき

る措置がとられています。

この措置を適用し、最近では、平成三〇年四月の居住制限区域・避難指示解除準備区域が解除された大熊町などで復旧事業に着手し、令和二年度に工事を実施しました。これまでに、二七市町村、七八路線、一六三箇所の復旧を行っています。

今年度解除となる帰還困難区域内に被災箇所はありませんが、今後も解除に合わせ未調査箇所の実態把握を適宜行い、全面復旧を進めていきます。

舗装面の亀裂から植生が繁茂した被災箇所
（平成30年大熊町）

②令和元年台風十九号災

令和元年十月十二日から十三日の台風十九号に伴う豪雨による災害では、中通り、浜通りを中心に三〇市町村、一二八路線、二四一箇所の復旧を行っています。

特に南相馬市において被害が甚大であったことから、発生から四年目となる今年度も事業を継続しています。

七月末の工事完了は、八二パーセントとなっており、早急な復旧に向け工事を進めています。

③令和二年七月豪雨災

令和二年七月二八日から二九日にかけての局地的な豪雨による災害では、喜多方市の三路線、三箇所で復旧を行っています。

このうち、一路線において地すべり性崩壊が発生し橋梁が被災しました。復旧対策は、地すべり対策、橋梁に代わる大型排水施設、道路工事と複数工種に及ぶ大規模な工事となっております。

今年度の事業完了を予定しています。

④令和四年三月福島県沖地震災

今年三月十六日に発生した地震による災害では、四市町、四路線、九箇所が被災しました。六月二七日から二九日に災害査定を受け、現在、工事の発注準備を行っています。

地すべりの押出しにより被災した橋梁
（喜多方市板の沢沼ノ又線）

表２　災害関連山村環境施設復旧事業

発生年	査定額
平成23年災	
集落排水施設（古殿町）	38,498
森林公園施設（白河市）	4,142

㈡　災害関連山村環境施設災害復旧事業

林業関連事業により整備した集落排水施設や森林公園施設などの復旧工事に対する国庫補助事業です。

補助率は五〇パーセントで、事業費二〇〇万円以上などの条件を満たした復旧工事が補助対象となります。

県内では、平成二三年東日本大震災により被災した集落排水施設などの復旧工事を実施しています。

森林公園管理施設の被災（白河市南湖公園）

三　おわりに

林道の復旧事業は、現地調査、予算の確保、対策工法の設計、工事の実施などの段階を経て完了となります。その間に、国や市町村の職員、設計コンサルタントや建設会社の技術者など多くの人が連携して事業を進めています。

また、福島県森林土木建設業協会と山地災害防止等支援活動に関する協定書を締結し、災害発生時には地域に密着した情報収集に協力をいただいております。

県としては、今後とも関係者に対する技術的、人的な支援を通して、通行止めなどによる利用者の不便解消と安全確保に努めてまいります。

いわき市における スマート林業の取り組みについて

いわき市持続可能な森林・林業推進会議

Ⅰ　背景

いわき市の森林面積は、総土地面積一二三、一〇二ヘクタールのうちの七二ヘクタールにあたる八八、七四四ヘクタールであり、国有林が三〇、七〇五ヘクタール、民有林が五八、〇三九ヘクタールとなっています。

この民有林のうち三三、〇三九ヘクタールが人工林であり、その九九パーセントの三二、七七五ヘクタールが針葉樹となっています。さらにスギ人工林は二二、三〇〇ヘクタールとなっており、七九パーセントにあたる一七、五四四ヘクタールがX齢級以上となっています。

いわき市においては、いわき市の林業を持続的に成長産業化させる体制を構築するべく、「いわき市持続可能な森林・林業推進会議」を平成三一年三月に設立しました。

また、同時期に林野庁の補助事業であるスマート林業構築推進事業（スマート林業実践対策）に地域協議会として採択を受け、いわき市三和町のSGEC認証を受けた森林を対象に、認証材のサプライチェーンマネジメント構築と、基盤情報を共有するシステムの構築に取り組みました。

Ⅱ　いわき市持続可能な森林・林業推進会議

いわき市での林業における取り組みは、これまでも磐城流域いわき地区林業活性化センターが核となり、民有林・国有林一体的に多様な森林整備・森林環境保全・地域産木材の利用推進を図るため、多様な活動を展開してきました。

これらの活動の成果を基盤として、地元産木材の需要拡大による林業・木材産業の振興と持続的な森林資源の確保ならびに人材の育成を両立して有機的に推進し、川上への利益循環とサプライチェーンマネジメント推進体制の構築を図って成長産業化を達成することを目的として、いわき市森林組合、いわき市、福島県いわき農林事務所、磐城森林管理署をはじめ、原木市場や製材事業者、素材生産事業者、建築設計、NPO法人等二四者を構成員として、いわき市持続可能な森林・林業推進会議を設立しました。（図―1）

Ⅲ　スマート林業構築推進事業（スマート林業実践対策）

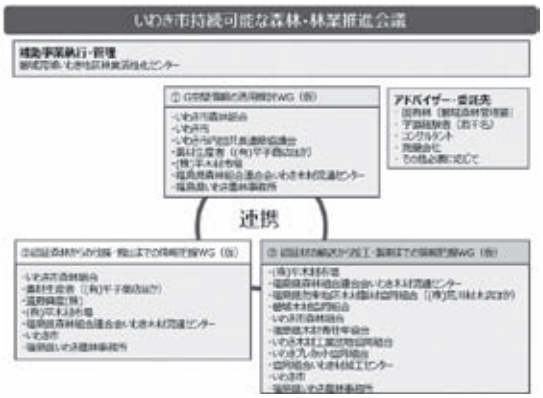
日本におけるスマート林業の定義については、令和二年十二月十九日に開催された森林計画学会と森林利用学会の合同シンポジウムで、「ICTおよびスマート化技術を活用し、森林資源利用に関係する各段階において、森林・林産物に関する幅広い情報の収集と処理、情報共有・活用を行うことによって、高効率で、労働負荷および環境負荷が低く、リスクに対する耐性の高い持続的森林資源利用を達成する林業」と示されたところです。

林野庁では、「スマート林業をほぼ全ての意欲と能力のある林業経営者に定着させる」という目標設定がなされ、スマート林業を「知る」、スマート林業を「試す」、スマート林業を「導入する」の三段階による技術実装のための施策を展開しました。

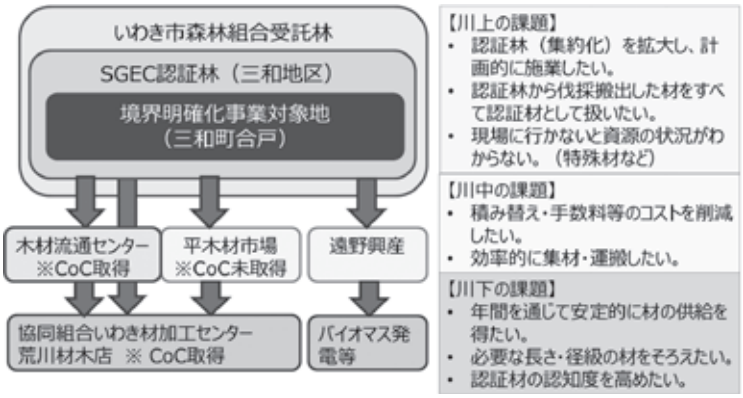
いわき市においては、このうちの「試す」として事業化されたスマート林業実践対策事業を活用し、特に森林認証におけるSCM（森林認証SCM）の構築を目指し、令和元年度から令和三年度までの三カ年で実践的に取り組んだところです。

本事業は、「森林情報の高度化・共有化」と「経営の効率性・採算性向上」をテーマとして構成されています。

一般的に林業における川上から川下への流れは、境界測量→事前把握→事前計測→伐採計画→伐採→造材→運材→土場搬出→運送→製材となっています。今回のスマート林業の取り組みでは、境界測量に準天頂衛星のシステム、事前把握に航空レーザ計測データ、伐採計画で計画



図―１　いわき市持続可能な森林・林業推進会議



図―２　スマート林業構築推進事業

情報共有システム、土場で検知アプリ、運送で伝票情報共有システムの活用を実践しました。（図―２）

１　令和元年度

(1)　森林情報の高度化・共有化

基盤情報を共有するシステム構築として、航空レーザと境界情報の重ね合せによる森林認証林の情報を共有する仕組みの構築、準天頂衛星で取得した情報を共有する仕組みの構築、準天頂衛星を利用したＧＰＳと従来のＧＰＳによる山間部における位置情報取得状況の比較に取り組みました。

(2)　経営の効率性・採算性向上

森林認証ＳＣＭの構築として、森林認証材の伐採から搬出、運搬において、境界と資源の情報が把握できることによる効率性・採算性の向上を検証・実装に取り組みました。

コスト要因の分析・準天頂衛星による削減可否の検証。情報の把握により、コスト一割削減を目標としました。

初年度は対象地区の認証材の流通・輸送の現状を調査分析しました。

２　令和二年度

(1)　森林情報の高度化・共有化

搬出情報を共有する機能追加として、前年に構築した仕組みの運用となる、準天頂衛星を用いた伐採搬出における情報を、タブレット上に登録する仕組みの構築に取り組みました。

(2)　経営の効率性・採算性向上

伐採搬出の情報把握として、森林認証材の流通において、伐採搬出の情報が把握できることによる効率性・採算性の向上を検証・実装に取り組みました。

３　令和三年度

(1)　森林情報の高度化・共有化

トレーサビリティ確保の機能追加として、前年までに構築した仕組みを運用するとともに、トレーサビリティを確保するための仕組みの構築に取り組みました。

(2)　経営の効率性・採算性向上

輸送から加工までの情報把握として、森林認証材の流通における、トレーサビリティの確保による効率性・採算性の向上を検証・実装に取り組みました。（図―３）

図－３　伐採計画と土場、製材をつなぐ情報

Ⅳ　スマート林業の成果

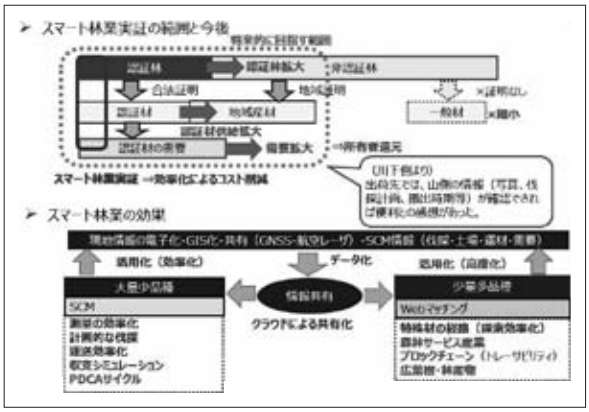
森林認証ＳＣＭについて、いわき市森林組合、木材市場（県森林組合連合会）、荒川材木店の三社による協定を締結し、森林組合が材を製材所に運搬、製材所で仕分け・検知、木材市場で伝票により清算する「直送モデル」の実証を行いました。

令和二年度の実証では、認証林七・二ヘクタール、三五～六〇年生のスギ・ヒノキの間伐により搬出された、利用材積六九〇立米について、利用コストを従来方式と比較したところ一立米当たり一、五〇〇円の削減となりました。（図―４）

Ⅴ　今後の展望

今回の実践対策事業で導入したＧＮＳＳ機器やソフトウェアの使用料、地域版森林クラウドの維持管理費など、ＳＣＭの運営のためのベースコストが発生しますが、その費用負担については推進会議での課題の一つとなっています。（図―５）

しかしながら、川上の情報（境界・資源・伐採計画・土場）を共有していくことで、材の運送・取引の効率化につながり、需要に応えることで所有者にも還元されることは、推進会議の目指すところでもあり、スマート林業の対象範囲を拡大し、認証材の流通量を増大させていくことを、発展的な目的として、推進会議としましては、更なるスマート林業の活用に取り組んでいきます。



図－５　情報共有による効率化と所有者への還元

工程	項目	負担	従来方式	森林認証SCM	効果	比率
伐採	（委託）	川上				
	周囲測量	川上	181	163	−18	90%
	搬出検知	川上	156	104	−52	67%
流通	運賃	川上	1,900	2,100	+200	111%
	手数料	川上	500	400	−100	80%
	配列料	川上	750		−750	—
		計	3,487	2,767	−720	79%
	運賃	川下	1,200		−1,200	—
	市場積込	川下	400		−400	—
	選別費	川下		750	+750	—
		計	1,600	750	−850	47%
合計			5,087	3,517	−1,570	69%

図－４　利用コストの削減（円／㎥あたり）

林業アカデミーふくしま研修日誌③

福島県林業研究センター

就業前長期研修三ヶ月目の六月は資格取得を中心に、多様な知識・技術を習得しました。

○六月の研修内容

始めに**「車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）運転技能講習」**を受講。車両の構造や力学など、これまでと毛色の異なる研修に始めは戸惑っていた研修生たちでしたが、しっかりと説明を聞き、練習することで、知識や感覚を掴んでいきました。

次は**「不整地運搬車運転技能講習、小型移動式クレーン運転技能講習」**を受講し、最後には伐木等機械（ハーベスタ等）、走行集材機械（フォワーダ等）、そして簡易架線集材装置（スイングヤーダ等）といった、いわゆる高性能林業機械に必要となる**「車両系木材伐出機械に係る特別教育」**を受講しました。

また、**「チェーンソー及び刈払い機の取扱いと安全性の追求」**では、主要メーカー二社から講師を迎え、チェーンソー等の分解・メンテナンス・組み立て等を、実践しながら学びました。

「造林」、**「育林」**、及び**「間伐」**では、講義や各発達段階の林地見学を通して、各種施業の基礎知識を学びました。

○研修生の感想　菅野雅樹さん

四月に林業アカデミーに入講しあっという間に二ヶ月が経過しました。この間に、同じアカデミーに通う仲間たちと知り合い、チェーンソーや刈払機の使用方法などを学ぶと共にバックホウや小型移動式クレーンなどに関する資格を取得することができました。最初は周囲についていけるのか、体力的に大丈夫なのか、など様々な不安がありましたが、仲間たちと作業方法や操作手順について相談や確認し合い、支え合って乗り越えることができました。将来、このアカデミーで学んだことを活かし、さらに福島の林業を発展させるために努力していきたいです。

○研修生の感想　宇野太郎さん

車両系建設機械などの技能講習及び林業機械の特別教育を修了しました。座学では、それらの構造や基本力学、法規、そして安全について造詣を深めました。その中で私が一番印象に残っているのが、機械化により林業がどのように変化してきたのかです。

※統計によれば、林業の労働者数は、一九七〇年に約二六万人いたのが二〇一九年では約六・四万人へ。丸太の生産量は、約四千五〇〇万立方メートルだったのが約二千三〇〇万立方メートルになりました。人は四分の一、生産量は二分の一へ。労働者数、丸太の生産量は減少していますが、機械化により「一人あたり」の生産量は二倍に増加していると学びました。

実際に、実習で操作をして思ったのは、慣れるまでは大変ですが、機械を使うことにより作業効率が向上し生産量増加に繋がっているということを実感できました。その反面、正しい知識と正しい操作をしなければ危ないものだと再認識できました。安全性と効率性は、反比例の関係にあると思いがちですが〝安全第一〟で作業することが一番効率のよい作業だと思います。安全に作業するためには、ゆっくり正確に、機械を操作することが必要になります。

そして、簡単な作業ほど本質的には一番難しい作業だと思います。どのような現場でも〝指差呼称〟確認をと言われます。その指差呼称が本当に効果的なのか実感しにくいために一人作業の時に出来ている作業者とそうでない作業者が出てくると思います。林業現場では、基本的に一人作業になることが多く、指差呼称をしなくても他人に指摘されない環境であるために他業種よりも安全に対しての正しい知識と理解をもっと深めていかなければと考えています。

安全に作業することが最も効率の良い作業だということを普及し、自身の技術向上と知識を得るために林業アカデミーふくしまで学ぶ日々を大切にしていきたいと思います。

※林材業労働災害防止協会「林材業労働災害防止関係統計資料」（令和四年五月三〇日現在）

ハーベスタ操作の指導を受ける様子

下刈について説明を受ける様子

シリーズ「新たな森林づくり」③

放射性物質に汚染された森林の整備　ふくしま森林再生事業

福島県森林整備課・富岡林業指導所

紹介する補助事業は…

今回紹介する事業は、「ふくしま森林再生事業」です。原発事故に伴う放射性物質の影響により、森林整備や林業生産活動が依然として停滞しております。森林整備が停滞すると、荒廃した森林が増え、これまで森林が有していた公益的機能が十分に発揮されず、水源かん養機能の低下や土砂災害の発生リスクが高まるなど、私たちの生活へ様々な影響が及ぶことが心配されます。このため、森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を一体的に推進し、森林の有する公益的機能を維持しながら放射性物質の拡散防止を図ることを目的とした、「ふくしま森林再生事業」を実施しています。

主な事業の概要は以下のとおりです。

①事前調査や森林所有者の同意取得等

②整備前後における空間線量率の測定

③土砂移動抑制対策（丸太筋工の設置等）

④森林整備（間伐、更新伐等）

⑤路網整備（森林作業道の開設等）

○取組事例の紹介

富岡林業指導所管内

管内では、同事業を平成二六年度から県営（委託）及び町村営（補助）により実施しています。

事業の目的に鑑みれば早急に事業実施する必要性があるにも関わらず、双葉郡の八町村については、帰還困難区域を有する五町村をはじめ、未だに線量の高い地域があること等から、事業に取り組めない自治体が存在するなど、進捗が思うように図られない、或いは着手できないなどの課題を有しながら事業を実施しています。

⑴　技術面での工夫・施工上の留意点

森林内の放射性物質については、樹木から土壌に移行するなど、その分布が変化していると見られることから、森林施業の実施に伴い、放射性物質を含む表土が森林外の宅地や農地、ため池等に流出しないよう、特に留意しながら作業を実施する必要があり、その対策として主に丸太筋工が施工されています。

⑵　今後の課題

管内では、集成材工場やチップ工場等、近年新たな木材利用施設が立地しており、事業に伴い生産される材の利用についても検討を進める必要があります。

森林整備の概ね一年前に実施する年度別計画作成業務において、事前に伐採予定箇所の空間線量率を測定し、県の指針に基づき、〇・五μSv／hを超える場合は樹皮の放射性物質濃度を測定しています。県指針の六、四〇〇Bq／kgを超える材については、搬出、流通することがないよう、管理し、現場内に集積しております。一方で搬出される木材については、県木連や各木材市場とも協力しながら、丸太の表面線量を測定し、安全性の確保に努めております。安全が確認された材については、適正な材価での取引により、森林所有者に還元されることで、地域の森林整備が一層促進されることが期待されます。

また、事業を円滑に継続して実施するためには、現場作業の負担を軽減する必要があることから、林業研究センターが昨年度から取り組んでいるドローンを活用した研究との連携による現地調査の省力化についても検討していく予定です。

丸太筋工

丸太の表面線量測定

調査用ドローン

公社だより

第９回 定時社員総会を開催（６月15日）

去る六月十五日(水)福島市の「キョウワグループ・テルサホール(福島テルサ)」において、ふくしま緑の森づくり公社の第九回定時社員総会を開催し、令和三年度の事業報告及び決算について議決いただくとともに、令和四年度事業計画などについて報告しました。

はじめに、井出孝利理事長より「昨今、新型コロナウイルスの感染拡大や、ロシアによる一部木材の輸出禁止措置など、世界的な情勢不安により、林業を取り巻く環境は大きく変化し、木材需給の予測が困難な状況となっています。このような中、国内のスギやヒノキ等の人工林は、はぐくみ育てる段階から、建築用材等として活用できる段階へと移行してきており、こうした国際的な情勢不安に対応していくためにも、国内の林業生産活動の強化が大変重要になっています。本県においても、木材として利用可能な人工林の森林資源が充実してきていることから、当公社としては、市町村や関係団体と連携しながら、「ふくしま森林再生事業」などを活用し、積極的に木材を市場に供給するなど、本県木材の利用拡大に取り組んでいるところです。引き続き、森林整備を担う公的機関として、本県の森林再生や、ＩＣＴ等の最新技術を活用した林業生産活動の増進に向けた取組を進めてまいりますので、皆様には、今後とも、お力添えを賜りますようお願いします。」と挨拶がありました。

次に、川俣町の藤原一二町長を議長に選出して議事に入り、令和三年度の事業報告及び決算の承認、令和四年度の賦課金の徴収、役員の選任など合計四議案についての審議が行われ、原案どおり承認されました。

令和三年度の主な事業実績については、以下のとおりです。

１　効率的な森林整備と森林再生への取組

有利な補助事業の最大活用や利用間伐を中心とした施業の重点化を図ることにより必要な事業を実施し、効率的な森林整備に努めました。

また、ふくしま森林再生事業については、会津美里町や住民の帰還が進む飯舘村などの契約地において、引き続き森林整備を行うなど、関係市町村等の支援を受けながら、中核となって造林地の再生に取り組みました。

２　木材生産販売対策の推進

搬出コスト低減のための作業路網の整備や、ウッドショックやロシアのウクライナ侵攻の影響など、木材需要情報の把握に努めながら、計画的な木材生産と有利販売に結びつく採材に努め、木材市場での委託販売や山土場での買受申込による販売など、積極的な木材販売に取り組みました。

３　分収造林契約変更の推進

引き続き二名の専任担当者を中心に契約者との交渉を実施しました。

その結果、分収割合の変更は十九件、契約期間の延長は八件の同意が得られました。

４　普及・啓発活動の展開

新型コロナウイルス感染症を考慮し、公社主催の各種研修会は中止としましたが、林業関係団体等との連携を図りながら、施業技術等の習得や向上等に取り組みました。

５　市町村との連携による新たな森林管理システムへの挑戦

社員市町村が、ふくしま森林再生事業の計画を策定するに当たって助言を行ったほか、新たな森林管理システムについて、社員市町村へのアンケート調査を実施しました。

６　ＩＣＴ技術、新たな施業技術の活用

計画的な森林整備や路網整備などに必要な航空レーザ計測データ等のＩＣＴ技術の導入に向け、森林ＧＩＳの更新など公社造林地の情報の精度向上に取り組みました。

令和四年度は、保育事業等、三九六㌶の森林の整備や一五、二四〇㍍の作業路開設など、約三億四、三〇〇万円の事業を実施する予定です。引き続き関係団体等との連携のもと健全な森づくりに努めてまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

※当公社の概要、第二次新生プラン等については、当公社ＨＰで公表しております。

（URL：http://www.fuku-rin.jp）

公社造林地の施業状況（郡山市湖南町）

路網作設・材の搬出（田村市常葉町）

林研グループだより

令和４年度通常総会を開催しました

福島県林研グループ連絡協議会は、令和四年七月二六日(火)郡山市安積総合学習センターにおいて令和四年度通常総会を開催しました。この二年間は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会員が一堂に会しての開催を控えておりましたが、久しぶりに会員同士が顔を合わせての開会となりました。

まず令和三年度事業報告及び収支決算報告、続いて令和四年度事業計画及び収支予算案が協議されました。

令和三年度も新型コロナウイルスの感染状況に収束を見込めない中で、東北・全国規模で開催される各種研修会等がオンライン開催や書面開催となりましたが、舘岩グリーンフォレスターが全国林業研究グループ連絡協議会からの助成を受けて未来の林業を支える林業後継者養成事業を実施し、また、会津里山森林資源育成研究会が林業新知識一〇月号『林研コーナー』に『キリ玉植苗で森林緩衝帯の整備』と題して寄稿し、更に同研究会の活動が令和三年度未来の林業を支える林業後継者養成事業で刊行された『地域の担い手を応援する林研活動情報集』に掲載されるなど、それぞれの林研グループが日々の活動を着実に行いました。

豊田新一会長あいさつ

福島県林研グループ
連絡協議会

会員からは、過去に参加した全国林業リーダー研修会をはじめ、研修に参加したことで得られたものがあった。感染の広まりが予断を許さない状況ではあるが、全国規模の研修が行われる折りには、会員に広く周知し参加者を募るよう求める意見が述べられました。

次いで、この総会で現役員の任期が終了するため、次のとおり役員が選任されました。

会　長　田人林業研究会
　　会長　豊田　新一
副会長　古殿町天しぼ研究会
　　代表　岡部六三郎
副会長　ふたばグリーンレディースネットワーク二〇〇〇
　　代表　早矢仕恵子
監　事　田村森林研究会
　　代表　松崎　勝美
監　事　舘岩グリーンフォレスター
　　代表　星　祐治

併せて、田人林業研究会　蛭田一氏が顧問として承認されました。

最後に、天皇陛下御在位三〇年を記念して福島空港フロントエリア「花木園」に植樹したケヤキとヤマザクラが順調に生育していることが報告され、総会は終了しました。

総会終了後には、来賓として出席された県森林計画課から林研グループの活動に関係する県の助成制度や林業アカデミーふくしま就業前長期研修の第二期生の募集についてお話がありました。

総会参加者からは、助成の具体的な内容についての質問や意見が述べられたほか、林業アカデミーふくしまの研修生募集を宣伝したいという意見が表明されたりしました。

総会の様子

木の文化を育む㊶

里山の香りを届ける

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿　部　恵利子

（株式会社一十八日）

○はじめに

古来より人々は、病気や傷を癒すために身近な植物を薬草として食したり、香りを嗅いだり、肌に塗布して利用してきました。「香薬」と呼ばれる芳香植物は、薬の原料としての役割を担っており、植物から抽出した香り成分である精油（エッセンシャルオイル）は、美容、健康増進のほか、リラクセーション、スポーツ、介護や医療、予防医学などでも活用されています。自然が持つ豊かさや恵みが今、「里山の価値を高める」持続可能な仕組みづくりにも役立てられています。

○日本の香りを届ける

〝日本の香り〟を多くの人々に届けたいという想いで、株式会社一十八日（東京・新宿区）代表 宝力 絢さんは、南会津の森林資源を原料とした和精油の販売を行っています。南会津での精油作りは、里山の価値を高めるための活動でもあり、地域の方々の協力を得ながら、さまざまな香りを生産しています。高品質で安定した精油製品をつくるために自社で成分分析を実施し、徹底した品質管理を行いながら、日本の里山の香りを多くの人々へ届ける活動を行っています。

○会津香りプロジェクト

宝力さんは会津若松の若手農家の皆さんと共に、会津の耕作放棄地などを活用して和ハーブとして知られている「紫蘇（しそ）」や「薄荷（はっか）」を栽培し、和精油を生産しています。生産は栽培から蒸留まで一貫して行い、精油生産後の残渣は次の栽培のための土づくりにも利用するなど、サスティナブルな仕組みづくりにも取り組んでいます。

一十八日では精油のブランド名を「かおる里山」と命名しました。紫蘇精油は除草剤なども使用せず、完全無農薬で栽培した紫蘇を原料としています。また、薄荷は精油量が多く食品や薬品に使用されている「はっか農林11号北斗」を原料に、強い清涼感と爽やかな香りを特徴とする精油を生産しています。

一十八日の香りは、ＪＲ東日本の運行するTRAIN SUITE四季島車内のイメージフレグランスとして採用されているほか、国内のみならず海外においても注目されており、一十八日でつくられた高品質の和精油は海外にも輸出されています。

○南会津アロマ蒸留体験ツアー

株式会社一十八日の南会津ショールームでは、南会津で採取された「クロモジ」などの精油製品を中心に、さまざまなアロマ関連商品の展示販売をしています。

南会津の針生地区にあるアロマ工房では、自分で採取した植物から精油の蒸留体験ができる「南会津アロマ蒸留体験スタディーツアー」を定期的に開催しており、広大な森林面積を有する針生地区の森林資源を有効に活用するためのさまざまな取組みが行なわれています。精油の蒸留体験や野菜の収穫、郷土料理を堪能するほか、塔のへつりや大内宿への観光案内も積極的に行い、観光事業との繋がりにも視野を広げ、地域活性化や林業の貢献につながる企画を地域の方々とともに展開しています。

○まとめ

〝日本の香り〟を大切に多くの人々に届けたいという想いと「里山の価値を高めたい」という地域の人々の想いが繋がり、沢山のモノ・コトが生まれグローバルな取組みへと波及していきます。里山の資源を上手に使い、サスティナブルな社会の実現に向けた仕組みづくりを皆で創造してみませんか。南会津では毎年九月に「アロマ祭り」を開催しています。貴方にも〝里山の香り〟が届きますように…。

アロマブレンドワークショップ

森の植物に触れる散策ツアー

〈南会津アロマ蒸留体験スタディーツアーの様子〉

木材市況

四月の原木市場への入荷量は、前月比二パーセント減（前年比六パーセント増）の二八、七四三立方メートルとなっている。

販売量は、前月比三パーセント減（前年比六パーセント増）の二八、六三七立方メートルとなっている。

五月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年５月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	10 (10～10)	0	(0～ 0)		11 (11～11)	0	10 (10～11)	0
		10～14		並	スギ	16 (16～17)	△1	(0～ 0)		16 (14～18)	0	16 (14～18)	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	17 (16～19)	△1	16 (16～16)	1	17 (16～18)	0	17 (16～19)	0
				並	ヒノキ	19 (19～19)	0	(0～ 0)		26 (22～30)	△1	23 (19～30)	△1
			6.00	並	スギ	20 (17～22)	0	12 (12～12)	0	21 (21～21)	0	19 (12～22)	0
				並	ヒノキ	30 (30～30)	0	(0～ 0)		30 (30～30)	0	30 (30～30)	0
		20～28	3.65	並	スギ	15 (14～16)	△1	14 (12～16)	0	15 (13～17)	0	15 (12～17)	0
			4.00	並	スギ	15 (14～16)	0	13 (12～14)	1	15 (13～17)	△1	14 (12～17)	△1
				並	アカマツ	14 (12～17)	0	(0～ 0)		11 (10～12)	0	13 (10～17)	0
			1.80	並	アカマツ	13 (11～15)	0	(0～ 0)		9 (9～10)	0	11 (9～15)	0
外材	米材(定尺)	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
				並	米マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		40 (40～40)	2	40 (40～40)	2
	北洋材(定尺)	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	1	35 (35～35)	1
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	1	35 (35～35)	1
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	1	35 (35～35)	1
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)		(0～ 0)		(0～ 0)		7 (7～ 7)	
				並	広葉樹	10 (10～10)		(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10～10)	

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材		12以下	4.00	並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	7 (6～ 8)	0
		13～14		並	カラマツ	0 (0～ 0)	0	8 (7～ 8)	0
		16以上		並	カラマツ	0 (0～ 0)	△22	12 (11～12)	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

倉座敷を彩る銘木

会津農林事務所　林業課　木村　充

喜多方市は古くから物資交易が盛んであり、明治時代に多くの豪商や地主が生まれた地域です。現在でも数多くの倉が残存しており、特に贅を尽くした倉座敷は来訪者の目を楽しませてくれます。

先日、指導林家さんから喜多方市中心部にある若喜商店を紹介されたので、早速休日に見学させていただき、お店の方にお話を伺うことができました。若喜商店の創業は宝暦五年（一七五五年）で、醤油、味噌を造り続け、荷馬車で大峠を越えて山形市、福島市まで運んで財を成したそうです。明治三七年に七代目の隠居後の楽しみとして建立したのが「縞柿倉座敷」で、天井から柱、鴨居にいたるまで全て「縞柿」で造られています。縞柿は大変貴重な銘木で、黒色の材があったとしても通常は中心が黒くなるだけで、このような縞模様はほとんど見られないそうです。当時山形で大量に柿の木が出材された時期があったようだと伺いましたが、長押等や座卓に用いられたものは大径で、特に貴重な銘木だと思われます。

米沢地方では上杉鷹山公の奨励により、今でも質素・倹約の象徴として武家屋敷内の柿や栗が見られますが、県内でも大事に育てられた柿の古木があれば、貴重な縞柿が見つかるかも知れません。残念ながら筆者は柿が銘木化するメカニズムを知り得ませんが、興味がある方は、喜多方で明治時代の倉座敷と銘木を巡る旅はいかがでしょうか。

店内掲示ポスター

はなしのひろば

アロハ

仕事帰りの車のラジオから流れてきたのは、ハワイアンミュージック。夏の夕焼けを車窓に感じながら別世界へと誘われる。そして、その音楽と切り離せないのがフラ（ハワイ語で踊り）だ。

八歳からフラを踊ってきた美咲さんと話をしていると、フラは、もともと神への畏敬の踊りであったこと、ハンドモーションは、心の言葉の表現であること、ハワイアンの楽曲は、一番、二番…を必ず二回ずつ繰り返す演奏構成で、思いは必ず伝えたいということ。また、「アロハ」は、挨拶だけではなく、愛する、慈悲、恋人等複数の意味をもっていると聞かされた。アロハは、何て精神性の高い言葉なのだろう。アロハの精神の表現がフラなのかもしれない。

かつての映画「フラガール」や美咲さんのおかげで、フラの奥深さを感じてきた。まさにハワイの風土が生んだ総合芸術だ。神への畏敬から生まれた音楽や踊りだからこそ、身を委ねると、とても心地よい。そして、踊り手は髪の長い人が大半だが、フラの動きで揺れる髪も、表情があって美しい。

彼女は、現在、全国でも数少ないハワイアンリトミックの講師になった。二二年間のフラをとおして「心地よく、優しくなれる」ことを伝えていくことだろう。

ところで、八月二一日いわき市で三年ぶりに「フラガールズ甲子園」が開かれる。「グループで踊る時、全員で気持ちを一つにしないとフラの美しさや楽しさも含め、皆さんに思いは伝わらない」と彼女は話す。アロハの精神を伝え合う舞台になりそうだ。

（都）

表紙の写真

「シャワー」

第36回ふくしま緑の写真コンクール　銅賞

受賞者　黒澤泰弘さん（いわき市）

撮影場所：猪苗代町

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会

発行　（公社）福島県森林・林業・緑化協会

発行人　飯沼　隆
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

陽光社印刷株式会社

（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第7回福島県きのこ料理コンクール 作品募集

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

きのこに対する正しい知識とその利活用の普及に向けて、県産きのこを用いたオリジナルのきのこ料理を募集しています。ご家庭での調理の機会も増えている折、県民の皆様からの多数のご応募をお待ちしています。

１．応募資格
- 16歳以上または高校生以上で、県内在住の方
- 応募は、個人（グループの場合は代表者）に限ることとし、一人１作品

２．応募条件
- きのこを用いた未発表の料理
- 福島県内で生産されたきのこを使用
  ※県産きのこの販売先：JA直売所、道の駅等
- 材料費は、４人分で2,000円以内
- 調理時間は１時間以内
  ※乾燥きのこ等をもどす時間を除く。
- 本審査に参加できること

３．日　　程
- 応募締切　令和４年９月30日（金）（必着）
- 本審査（調理審査）
  期日　令和４年11月23日（水・祝日）

４．応募方法
- 応募用紙（所定）に必要事項を記載するとともに作品の写真（カラー）を添付し、応募先に郵送又はメールで送付。メールの場合は写真のデータを必ず添付。

○詳細は当協会のホームページをご確認ください。応募の際は、応募用紙をダウンロードしてご使用ください。

→当協会ホームページ（https://www.fukurin-net.jp/）

第６回県知事賞受賞作品

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 八月号 通巻第六九六号
令和四年八月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円（税込）
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策
企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に 緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm 出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1